



あの除草剤が

ユニークアル!

農家さんに20年も愛される除草剤「トツガン」。
「トツガンR」として、これからも確かな除草をサポートします。



※WCS:稲発酵粗飼料



©水元あきつく



ビエ



ホタルイ



コナギ



アゼナ

初・中期一発処理除草剤

トツガンR

豆つぶ[®]250

特長

- ノビエを始めとする水田一年生雑草からホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、オモダカ等の多年生雑草を含む広範囲の雑草にも有効です。
- スルホニルウレア系除草剤抵抗性(SU剤抵抗性)のホタルイ、アゼナ類、ミゾハコベ、コナギ等の雑草に高い効果を示します。
- 軽量で自己拡散に優れ、無人航空機による散布等さまざまな散布方法に対応できる豆つぶ剤です。
- 水稲に対する安全性が高く、移植直後処理が可能です。
- 直播水稲に使用できます。

適用雑草及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、シズイ ヒルムシロ、セリ、アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布 湛水周縁散布 又は無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ノビエ2.5葉期 但し、収穫90日前まで			

※各有効成分を含む農薬の総使用回数ピリミノバックメチル2回以内、プロモブチド2回以内、ペンシルフロムメチル2回以内、ペントキサゾン2回以内

標準的な使用時期



⚠️使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに、時期を失ないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期です。
- オモダカ、クログワイ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないため、有効な後処理剤と組み合わせて使用してください。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなってください。未熟有機物を使用した場合は、特にていねいにおこなってください。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)で水の出入りを止めてください。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かにおこなってください。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁部散布をさけ、本田内で本田全面に散布してください。
- 以下のような条件下では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。

- 砂質土壌の水田、漏水田(減水深2cm/日以上)。
- 軟弱苗を移植した水田。
- 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 直播水稲に使用する場合は以下に注意してください。
- 発芽直後の稲に対して薬害を生じるおそれがあるので、適切な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布してください。
- 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
- 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
- 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 本剤は吸湿性があるので、濡れた手で作業したり、降雨で濡れることがないように注意してください。また、開封後は早めに使用してください。
- 本剤を無人航空機で散布する場合は次の事項に注意してください。
- 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
- 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
- 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置の開度を調整してください。
- 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布してください。
- 水源池、飲料用水等に本剤が流入しないように十分注意してください。

- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物に灌水しないでください。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないでください。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

⚠️安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2020年12月現在の知見に基づき作成しています。

1934(21-1)

